



送別・土田先生

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 嘉啓 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/10251">http://hdl.handle.net/10466/10251</a>

## 送別・土田先生

土田先生は几帳面な方である。会議などで、私たちが粗雑なすすめ方をすれば、いろいろと注意や指導していただいた点が多い。しかし、何といても、その方面での先生の面目が発揮されるものの第一は、印刷の校正である。トーマス・マンの日記の第1巻が翻訳出版された際、先生はその中から何十という誤植・誤記を見つけられて出版社に知らせてやり、大へん感謝されたそうである。これを見ても、先生の校正能力が、いかに優れているかが分るであろう。

土田先生の研究の中心は、トーマス・マンであり、それに関連してワグナーであるから、私の興味と重なる部分が非常に多い。にもかかわらず、先生と勤務先を同じにしていた十数年のあいだに、マンやワグナーについて、先生からお話を伺ったことは、あまりない。おそらくは、私が訊ねることをためらったためであろうと思われる。なぜなら、問いは、あらかじめ答えを内包しているからである。夢窓国師の『夢中問答』は、名著として知られているが、それが名著たる所以は、足利直義ただよしの問いが正鵠を射ていたことに、大いに由っている。愚問から、名答は生れない。

そうはいうものの、先生がこの度、定年を迎えられると聞いて、にわかに、あれもこれもお聞きしておきたい気持ちがしきりである。定年になられてからも、お目にかかる機会は、まだまだあるであろうから、これからはせいぜい勇気をふるいおこして、いろいろと先生に聞きたいと思っている。

独仏語講座 議長

伊藤嘉啓